

普及活動情勢報告（令和2年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

秀品率向上に向けて ～シシトウ現地講習会の開催～



試験品種を現地で確認

7月27日～8月7日にかけて、四万十町十和地区の9か所で、シシトウの現地講習会が開催され、生産者58名が参加しました。

普及所からは、整枝のポイントなど今後の管理についてと説明や秀品率向上に向けて実施している品種試験の途中経過を説明しました。

実証農家からは、「試験品種の果実は細いけど、少しシワが気になる」「樹勢が強く、生育は良い」との感想があり、「果形が悪くなるのは何が原因？」などの質問が出されました。

普及所は、今後もJAと連携して、シシトウの秀品率向上に向けて取り組んでいきます。

難防除土壌病害の防除を目指して ～露地ショウガ低濃度エタノール処理～



処理効果に関する質問をする農業者

8月7日、普及所は露地ショウガほ場で低濃度エタノールを利用した土壌還元処理の実証を開始しました。

露地ショウガでは青枯病菌や根茎腐敗病菌などの難防除土壌病害が問題となっています。従来の土壌消毒では土壌深部まで防除効果を得られにくいことが課題となっていました。低濃度エタノール処理では土壌深部への防除効果が期待されています。

実証圃場の所有者である農業者からは効果について期待する声が聞かれました。普及所では今回の実証の成果を検討し、技術の普及を図っていきます。

ショウガでGAP

～ショウガ（志和地区）GAP勉強会の開催～



説明を聞く生産者

8月17日、旧JA志和出張所においてGAP勉強会を開催し、志和地区のショウガ生産者2名が参加しました。

まず、普及所から「GAPとは何か」について説明し、その後皆でチェックシートに取り組みました。

参加者からは「GAPに取り組むメリットは？」「GAPの審査員は民間の人？」「審査員が来るのは1回だけ？」など質問がありました。

志和地区ではこの秋から基盤整備が計画されており、普及所はこれを機会にGAPを普及し、作業員も消費者も安全で安心なショウガ栽培のために力になりたいと考えています。

基盤整備後の法人経営を考える

～第1回米奥農業法人設立準備委員会の開催～



法人の営農の仕組みを説明する普及指導員

8月17日、米奥農業法人設立準備委員会が米奥集会所で第1回の委員会を開催し、委員7人が出席しました。普及所は基盤整備後の中心経営体となる法人設立に向け、これまでに開催した法人化勉強会の振り返りや法人の営農の仕組みを説明しました。

委員からは、法人の成り立ちや法人と地主の関係はどのようなものかなどあらためて質問がだされました。

整備地内での営農の見通しを図表で示したことで、委員の法人に対する理解を深めることができました。

普及所は、今後も町等関係機関と連携して法人化を支援します。

経営分析手法を学び、経営改善につなげる

～集落営農塾の開催～



経営体の営農状況について情報交換する様子

8月20日、高南農業改良普及所は影野町民会館で、地域営農アドバイザーを招き集落営農塾を開催し、中山間農業複合経営拠点（一社）四万十農産と集落営農法人（株）サンビレッジ四万十から5人が出席しました。アドバイザーには、各法人の部門別収支と月別資金繰り表から経営状況について助言を得ました。

参加者からは、自ら経営管理できるよう引き続きデータ管理の方法を学んでいきたいとの声がありました。

普及所は、今後も町等関係機関と連携して集落営農法人の経営安定に向けて支援します。

相互理解を深めて農福連携の推進を！

～第1回四万十町農福連携推進協議会の開催～



第1回協議会の様子

8月19日、普及所会議室で、今年度第1回四万十町農福連携推進協議会を開催し、農業法人、障害者就労支援事業所、社会福祉協議会、町役場、JAの職員12名が参加しました。

普及所は、前年度の農福連携の活動実績や今年度の事業計画などを説明しました。

参加者からは、取組始めたばかりで、分からないこともあり農福連携の勉強を深めたいなどの意見が出されました。

普及所は今後、協議会会員と協力しながら、農福連携を推進していきます。